

## 2 学童期の学びを見通して

### (1) 接続期の指導について

子どもの発達と学びの連続性を確保するためには、子どもの発達を長期的な視点で捉え、幼児教育・保育施設と小学校において、互いの教育内容や指導方法の違い、また共通点について理解を深めることが大切です。

子どもの発達や学びは連続しています。幼児教育・保育施設から小学校への接続を円滑にするということは、小学校教育の先取りをすることではありません。幼児教育・保育施設においては、就学前までの幼児期にふさわしい教育を行うこと、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うことが重要です。

遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ等の児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく異なります。そこで、小学校入学当初は、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくることが求められます。それがスタートカリキュラムであり、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する重要な役割を担っています。

今回の小学校指導要領等の改訂では、小学校入学当初に生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うことなどが示されました。小学校においては、複数の教科等のねらいのつながりを考えて合科的・関連的に進める単元を構想し、児童の実態や意識の流れに配慮した時間配分の工夫をしていくことが重要です。

この時期の学びの特徴を踏まえて、10分から15分程度の短い時間で時間割を構成したり、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように活動時間を設定したりすることなどが考えられます。児童の発達の特性或幼児期からの学びと育ちを踏まえ、児童の実態からカリキュラムを編成することが求められます。そのためには、幼児教育・保育施設へ小学校教員が訪問したり、教職員との意見交換をしたり、指導要録等を活用するなどして、幼児期の学びと育ちの様子や指導の在り方を把握することが重要です。

スタートカリキュラムは、小学校生活のスタートを円滑に、そして豊かにするものです。全教職員でその意義や考え方、大切にしたいことなどを共通理解し、全校的な協力体制を組んで第1学年を見守り育てるとともに、児童の実態に即して毎年見直しを行いながら改善し、次年度につないでいくことが重要です。

# ゼロからのスタートじゃない!

子供は幼児期にたっぷりと学んできています

## 【幼児期】学びの芽生え

- 楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
- 遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいく。
- 日常生活の中で、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わり合う。



幼児教育

- 5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を総合的に学んでいく教育課程等
- 子供の生活リズムに合わせた1日の流れ
- 身の回りの「人・もの・こと」が教材
- 総合的に学んでいくために工夫された環境の構成 など

## 【児童期】自覚的な学び

- 学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休憩の時間等）の区別が付き、自分の課題の解決に向けて、計画的に学んでいく。
- 各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- 主に授業の中で、読んだり聞いたり、読んだり書いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。



小学校教育

自立  
成長  
安心

スタートカリキュラム

- 各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程
- 時間割に沿った1日の流れ
- 教科書が主たる教材
- 系統的に学ぶために工夫された学習環境 など



(国立教育政策研究所 スタートカリキュラム スタートブックより)

## スタートカリキュラム実施の3つのポイント

### ①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮させること

活動の中で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が発揮されているかを意識して、カリキュラム・マネジメントに取り組みましょう。

### ②子どもと相談しながら進めること

子どもは、様々な環境の園から入学しています。子どもと相談しながら、より主体的・対話的で深い学びとなるように進めましょう。

### ③子どもによる違いを見定めること

同じ年齢でも、大きく個人差のある時期です。一人ひとりの違いをみとり、学びをより豊かにしていきましょう。